

ボローニャ大学協定留学（交換留学）月例報告書（2023 年 4 月）

文化政策学部 国際文化学科 4 年 外川内瑞季

【EU の授業】

音楽史、イタリア政治の授業に続いて、最後は「EU Institutions」という授業についてお伝えする。授業名の通り、European Union、欧州連合についての授業である。英語で開講されていて、イタリア人学生はもちろん、ヨーロッパ各国や英語圏からの留学生も多い。日本人学生の方も数名いらっしゃる。ほかの授業が数名～30 人ほどであることに対して、この授業は 70 名近くの学生とともに学んでいる。

EU 成立の歴史、重要な条約や危機、また、主要機関である欧州委員会や欧州議会などについて学んだ。私は SUAC の EU の授業がきっかけで欧州連合に関心を抱き、日本で得た自分の知識と掛け合わせて学べたため、とても面白い授業だった。日本で学んでいたときとは異なる、EU への見方が身につけられたと思う。

【プレゼンテーション活動】

この授業とイタリア政治の授業では、Pasqua（イースター）の連休明けからゼミナール形式となり、グループでのプレゼンテーションを行っている。他の学生のプレゼンテーションを見たり、実際に自分が行ったりして、感じたことをお伝えする。

まず、プレゼンテーションのクオリティーがとても高い。基本的に台本は用意されておらず、多くの学生が自分の言葉で伝えている印象を受けた。プレゼンテーションだからそれは当たり前のことだ、とも思うが、本当に頭で理解しているからこそ、自分の言葉で伝えることができるのだな、と強く思った。



授業が行われている教室

特に EU の授業は、多くの学生にとって英語は外国語であるにもかかわらず、ほとんどの学生がスラスラと、ごく普通に英語を使用していることに、ただただ驚き、感心した。私も、今後の人生でプレゼンテーションを行う機会があるだろうが、せめて日本語で行う発表に関しては、台本なしでできるようにしたい。

話しのスキルが素晴らしいことは皆さんも想像できると思うが、私が特に衝撃を受けた

ことは、スライドもまた素晴らしいことである。今まで感じたことのないような、素敵なデザインと見やすさ、分かりやすさに驚くばかりだった。パワーポイントや Canva などのソフトの使い方次第だ、と言われればそうだろうが、それでも心を動かされる、記憶に残るものが多かった。



プレゼン準備の様子

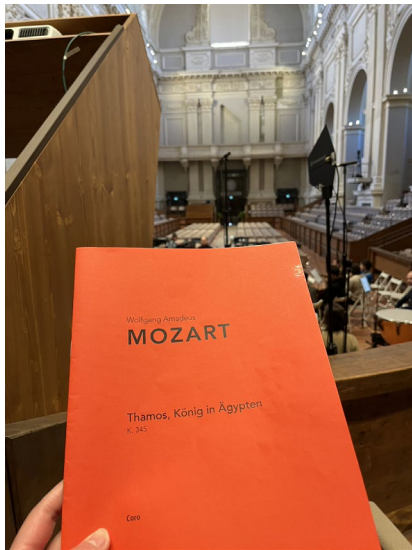
私は移民・難民危機についてのプレゼンテーションを、イタリア、ドイツ、イギリスの学生の方々と取り組んでいる。指定された文献を読み、その内容についてグループで発表する。私が特に関心のあるトピックの移民・難民問題について、専門的な文献を読み、同じグループの皆さんと集まって資料を作成し、多くの時間をかけて学ぶことができた。英語の文献を読むこと、英語でコミュニケーションをとることは、私にとってはまだささ簡単ではなく、イタリア語とも混同して苦勞したが、同じグループの皆さんのおかげで、素晴らしい発表ができると思う。本番を 5 月半ばに控えているため、悔いなく終わらせられるよう、最後までしっかり準備したい。

とにかく、学生の発表をたくさん見て、実際に自分もメンバーの一人として取り組んで、感動することばかりだった。そして、今後の自分のプレゼンテーションで取り入れたいポイントを多く得ることができたため、とても良い経験ができた。

【合唱団のコンサート】

4 月 17 日に、合唱団の大きな本番があった。モーツァルトの《エジプト王タモス》という作品を、大学付属のオーケストラとともに演奏した。

ドイツ語の歌詞で難しかったが、本番はたくさんのお客さんの前で、自分が合唱団の一員として歌っていることがとても嬉しく、幸せだった。また、大学の YouTube で配信もされたため、日本の家族や友人に送ったところ、リアルタイムでみてくれた。イタリアと日本、時差もあって遠く離れているにもかかわらず、同じ瞬間を大切な人たちと共有できたことも、とても嬉しかった。次の本番に向けて、勉強だけでなくこちらの活動も楽しみながら頑張りたい。



コンサートの様子。最終リハーサル前にはbuffetパーティーをしました。美味しい食べ物と一緒に、色々な人と話ができとても楽しかったです。

ボローニャ大学のYouTubeに配信が残っているため、ぜひ視聴してみてください！♪



←誕生日にルームメイトからもらったPasquaのチョコエッグ。なかなか大きかったです。

サクソパートの皆さんと！→

